

「一つでも役に立てれば」

能登地震 市職員 現地で支援活動

1月1日発生の令和6年能登半島地震の被災地支援のため、本市職員も現地での支援活動を行っています。市消防本部では、京都府の緊急消防援助隊として、石川県珠洲市に消防職員を7人ずつ交代で派遣。10日には、1〜5日に同隊の第一次隊として、現地で救助活動などにあたった消防職員2人が川田市長に活動を報告。道路の地割れなどで現地に到着できたのは3日夜だったと説明し、建物被害が多く、ライフラインが遮断されており「報道以上に凄惨な現場」と語りました。

倒壊家屋での救助活動は、余震で難航。消防職員は、もどかしさが募ったと振り返りつつ、消防車が通ると頭を下げられる被災者の姿などを目にし「できる限りのことをしたい」と、再び現地に入る覚悟を語りました。



④石川県珠洲市内の倒壊家屋で救助活動を行う市消防職員
⑤石川県七尾市の避難所で支援物資の配布業務にあたる職員

小中高生 市長に提言

1月20日、「八幡市子ども会議」が福祉会館で行われ、市内の小中高生の委員が、市をよりよくするため意見書を川田市長に提言しました。

同会議は、立命館大学政策学部稲葉ゼミと連携して行われており、今回で20回目。委員28人は5班に分かれてテーマを決め、昨年6月から調査や議論を重ねてきました。

「健康のまち」の実現について考えた中学生班は、健康情報を発信する現行の「キッズ健康アンバサダー」を、市独自で「によきにキッズ」と名付けよう」と提案。健康無関心層を減らすため、「やわたんツイスト」など委員考案の「ながら運動」を動画で紹介し、発信する案などを発表。ほかにも、竹を使った工作体験や展示を行うイベントの開催、地元食材を活かした新メニューの給食導入などが提言され、川田市長からは「具体的な提案で感心しました。今後も世の中の問題について考える姿勢を大切にしてほしい」とメッセージが贈られました。

子ども会議 昨年6月から調査や議論

「によき」を、市独自で「によきにキッズ」と名付けよう」と提案。健康無関心層を減らすため、「やわたんツイスト」など委員考案の「ながら運動」を動画で紹介し、発信する案などを発表。ほかにも、竹を使った工作体験や展示を行うイベントの開催、地元食材を活かした新メニューの給食導入などが提言され、川田市長からは「具体的な提案で感心しました。今後も世の中の問題について考える姿勢を大切にしてほしい」とメッセージが贈られました。



川田市長(写真右から2番目)、小橋教育長(同右)と一緒に自分たちで考案した「ながら運動」を行う中学生班の委員

舞台上で挨拶する「二十歳のつどい」実行委員会



二十歳のつどい

「カツコイイ大人に」 参加者代表の言葉

二十歳の門出を祝う「二十歳のつどい」を1月8日、文化センター大ホールで開催。色鮮やかな振り袖や羽織袴、スーツに身を包んだ499人(対象者688人)が出席し、人生の節目を喜び、新しい一歩を踏み出しました。

式典は、市内で活動する和太鼓サークルの演奏で開幕。続いて、川田市長と小北議長から、お祝いの言葉が贈られました。

参加者を代表して誓いの言葉を述べた八頭司陸斗(かとうじ りくと)さん。式典後、学生時代の恩師も招いた「二十歳を祝う会」を開催。参加者は、写真を撮ったり、思い出話に花を咲かせたりしていました。

このページでは、市民の皆さんの活躍やまちの話などを紹介しています。

身近な話題や、広報紙についての意見を、秘書広報課までお寄せください。

今月のこの人

「家族や友達を守る」二十歳の決意



二十歳のつどいの実行委員。男山第二中学校、京都八幡高等学校出身。現在は陸上自衛隊の自衛官として北海道で勤務。

「今年、自分の給料で親戚の子にお年玉をあげたり、両親に食事をごちそうしたりできました」と、二十歳になって迎えたお正月を振り返った八頭司さん。生徒会長を務めた高校時代は、コロナ禍で我慢を強いられていた学生を楽しませようと、文化祭でeスポーツ大会を企画。選手として出場しながら実況も行うなど奮闘した結果、3年生の時には、会場が満員になるほどの人気企画になりました。卒業後は、有事の際に大切な家族や友達の安全を守りたいと、陸上自衛隊を志望。

現在は北海道の部隊に所属し、国防の最前線で活躍するため日々の訓練に励んでいます。

二十歳としての決意を語る一方で、両親への想いもあふれます。「いつも私の意思を尊重してもらい感謝しています。立派に頑張る姿を見せて安心してもらいたい」と、感謝と決意を述べられました。

本コーナーでは、市にゆかりのある人物や団体を紹介しています。詳しくは、市ホームページまたは秘書広報課へ。